

古今
奇談

東
野
話

^ 13
3138
4



門へ 13
3188
4

古今奇談 野話 第四卷

六 素卿 宿人 二子 張唐 土に 携ふ 話

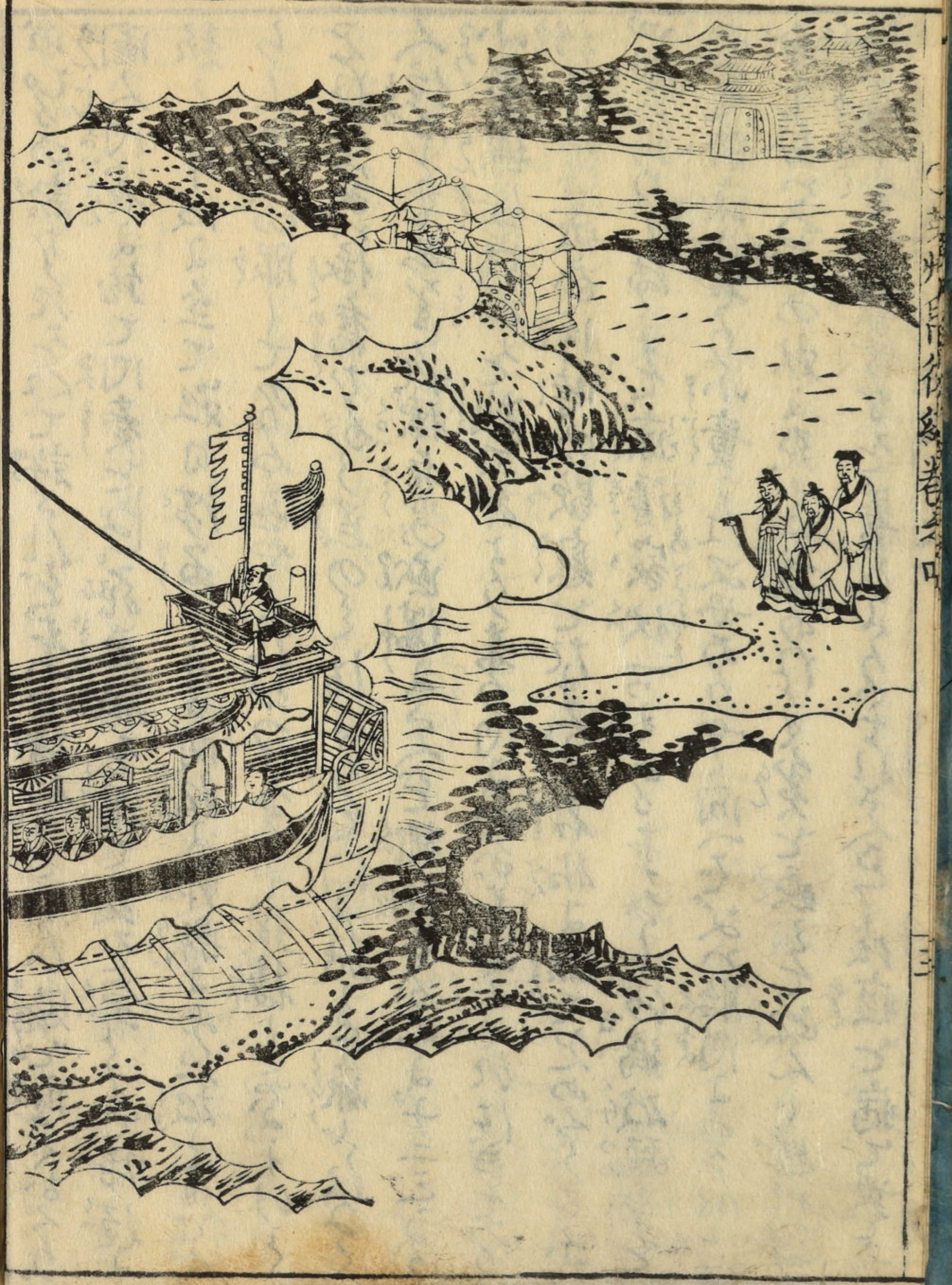
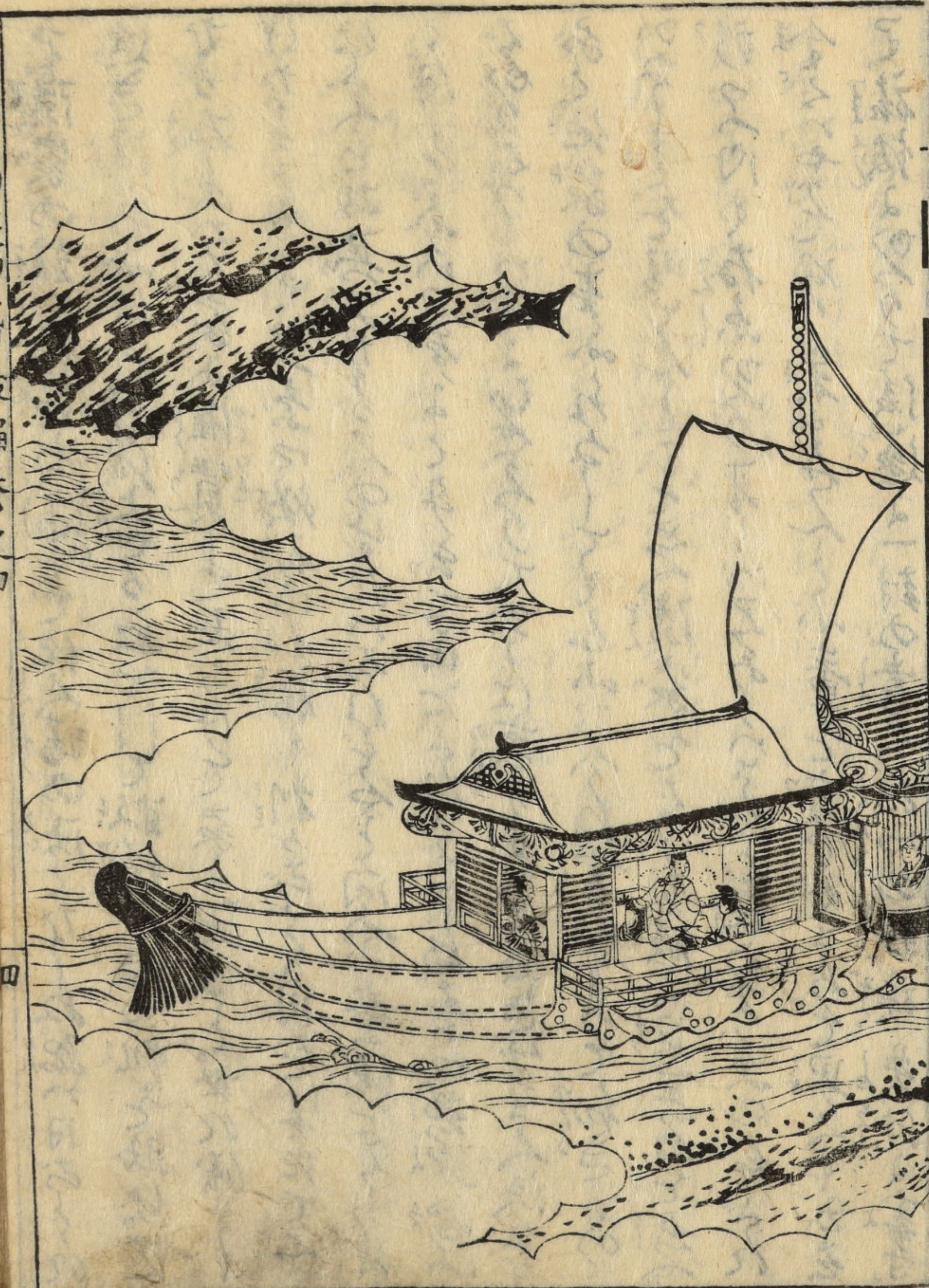
ある人の必に好む。大才人 約束の套へ入らざる。魏の井より小
なるがゆへ井の階のたふありて 放逐の門をひらく。古今律令乃 没
ふ。其坂を廣くして 知愚老幼にわかれぬ。経の雨よ 雲の雨よ。あそ
まてきて人を扱ど 身も保とぞ。うは守る 守る 守る 守る。あそ
の弘治正徳の比 寧波の 勤とや。んて 雨よ 朱縞字の 素卿とい 著
り。あそ 年より 亡頼と 毎ゆめて 一属よりと 傳は。世路は 後りて ころ
ひ。妻子を 遠く 棄て 壯心よ 海を 高船に 附搭して 去日本に あり。
泉州場よ 只を ぞ。あそ 少年れ 時を びらる 文を 家を 賣妻して 携
及山州の間よ 従来し。ぞ。びく 京師よ 徘徊と。異國人の 及び ところ 差
く 奇めて 跡らる 事のを つかん。び 都人 多く 追へて 妻を ぞ。あそ

古今奇談 野話 第四卷

昭和九年
九月十二日
購求

兆何某其郎はたれた命とて詩を歌せりや文と作しむるよはばと
我邦の人乃習ざる也他は是より雄たれば世は愛ふ事多く又漢
土歴代乃故まも記憶する海流る後と稱して増識多能となり
遂は室町の所又格条一和湯をゆるさ統歴の師となりたまこと
を好て富貴を乞ふ唐土ありしは遂ははるり膏梁は飽多
み富も財帛希ははら痺妻後と群と泉州は朱男見ふ人とは
生して其休育我幼き時よははるりつとやよはけても故國よ
のこせし友人の男子母と共ふ今此いつたりしやと記掛下と守府
義植云浩は入く足利家の職を執ひ承心は朱信使を唐土は遣
はるる事案内者かんがして朱縞を使は充るること比西の京乃多
聖廟を建てることば孔子はあつるの儀を請得てゆぐと命せり
ふ朱縞厚し而も同心大はほひ字は用て素とと披露一場の

漢は素船の設けり欠とたてしとぞん縞と解んとするれ何送るま
ましぬる士士はまかるが別は成情も是をはよく格懐しるがけは
つらて俄は云や唐土は又の本國なりは好むや必とゆりあて
あるはとまはくは身も推して好むとかなしとをく素は云我日
本は未だそ素貴をたねまはしむび故てよ行て着目の面目は漢
やんと欲するとの本はたりいんどけはよゆぐるの理あらん公
の使はゆらん我使とほるるあらん公乃は公乃と知るる未練
のあつるも河とるらどん様もせもまへまはしゆりなるんた
まは二人が命と失ひて後よゆりまするやあらんおれは別あつた
んとはなる。同じ世は流るるど青眞の長天緑水は波源は
魂ももどとらわらるるを隔てあらん死別もはなるらんはる
ゆらんあつと使を取て放らぬ素はけ言はせて涙とるる



久とてす。鬼は角よびと一雨よとむべきの念のなかりん
 ちや人の子のけだて不使よかなしくよの小思の比のあら
 せ。よの若年の比跡跡よの。一族れ諸君よううゆれ。ゆると
 すりうのとう。又母の困墳墓地を去。他國よありて異客と
 かる。日本にきて悲遇とてて。攻まらば又すまむ古仲渡り
 江波踏て兩國の意と蒙りんとと。ゆる我を畜養しつと。我
 六十をこていくなくれ。年うけ世よありん。我日本よ宗ありと
 へども外國の人親しとなく。誰又孤を托むべき。そを和國れ
 子も病と介揚しては。他よとわ並べし。人むのすくとも
 唐土の人となれ。よのる。成跡あり。後程の者ぬるあり。死
 身のふんなり。侍て他國よ久しき。我汝の志よありす。後
 なくゆり来て一雨よ。後をい。い。夜よと一雨よ。ゆばまて。

ありはゆるさ。流波と。其間朱波の許よと。ゆりておまじい
 ころころと。かめこと。さう。勅命と副使よ。すせどといと。みころ。
 男兒等も父の久し。ゆすまんと。つ。力よ。終のころあり。る。
 素の海昌の津より。船出と。四子も。東にのりて。おろり。ま。つ。後
 土の宿人。有。別酒を酌け。て。素卿。おの。ん。と。ん。人
 の子よと。中よと。と。て。人。ふ。お。保。音。と。い。よ。り。お。の。詞。ふ。こ
 かりて。よ。ご。わ。そ。り。と。だ。出。て。お。と。東。へ。か。成。と。は。り。て。船。と。え
 ん。と。と。希。緒。の。り。の。ぶ。出。し。る。船。の。い。と。い。く。なる。は。で。え。こ
 て。ら。ら。東。さ。ん。と。ど。な。は。は。ね。も。い。ま。へ。う。う。な。い。と。胸。つ
 ぐ。や。う。か。る。も。理。り。か。ら。う。な。後。ら。ら。だ。あ。り。別。ま。い。は。ら。き。ま。あ
 ひ。な。ら。ん。は。し。て。危。き。波。濤。と。は。ぎ。ふ。その。あ。を。た。ま。あ。る。み。の
 かなごり。ならぬ。げ。き。な。う。ん。う。や。を。一。日。と。ま。あ。て。こ。を。旅

のふまに之よりぬかて三つありしれバ信使調らと
 して賞賜多く恩遇者同日に務らり。此て義晴公の家業を
 嗣ふし世れ中終くしれん。慮を遠くたむ。大永二年信使
 を暇に遣はる。所は細川高國を頼り僧の瑞法を宗
 法と添らる。且ある高國の之内義興より信の宗設を諷
 道を仕りて信を色ど。且之内家先より別高國の
 所ありて。毎夜を以て看例なり。且使あるとぞん素御より
 先より到て俱に寧波なる。彼土の先例に凡そ貢納國の仕
 るはば先其貨を圓して筵席に請ふ。商客等へ至るを
 貨の多きこと上座に居し。貢使は其家屋の前後より
 て座とさし。素は彼地案内より市船の大監と略て
 親持の瑞法を誘ふ。此より市船先瑞法は貨物と圓し。

席に先瑞法を請て首坐し居し。宗設を次の身し居し。
 宗設大に怒先例に遠らりと瑞法と怒争なり。つて席間
 相極まり。あはれし。席互に怒怒と争せ。何の仕出む
 ありたり。論し。斬り斬り。去事なる。とぞん大監はとらん刀劍を瑞
 法に授けて戮りし。宗設が一隊逃て旅籠より。刀劍を取て
 再び戮りんと強執と。總督佐衛都指揮劉錦を斬殺し
 去て。去方を制と。宗設が下の者懐より。劉錦を斬殺し
 去。又揚ぼり。寧波近き海郷の徳を掠り。奪て逃れ。る。
 進徳より兵を出して。瑞法を静め。去。小京より。彼所の
 経て其罪と論し。市船大監を斬り。素はが。色を。罪に。陸
 を。たる。上。其亡命。て。怪。ざる。以て。事。不。論。して。遂。に。死
 刑。に。終。り。る。謀。道。瑞。法。は。國。の人。より。使。臣。た。れ。ば。罪。を

同く本國を還すをむげ禍いへ之市舶より起まると。是より
後此の市舶と禁制せり。其書いぬ人の記録す。毎歳より宗
正の第一属の初は所へ出るる代はて系累及ぶ。四人の子はあり
らん。核ありて信た死者は素の代はて誠とけり。去りても
其親子別とせり。別離の情せり人をし。酸鼻せり。和泉唐祇
の曲事ある人今ふて憂ふ

七 同之系系合流成脱て家と續一話

皇朝帝は沛宗。若秋國高無山は妖賊授搆て。其法本自眉
大く捕号し賊徒とせり。公は命と拒む。其近色の人民害と文
を呈す。國司は是と改む。是も除く。是より後朝廷より近
色運回はたてて助力を乞ふ。人をも賊徒強力のものを多く。其
其合流難なるに及ぶ。賊主眉麟王齊戒して法と修し。

同く出で戦ふ。一隊忽ち百ふ。是より人を殺し。是よりして
軍勝とせり。是より後ト分勝べきの場より。必ず兵を折る。宥
軍の中信は武士。是より後法春。月次は自叙。因に房蓋舎
兄弟二人一隊を結ぶ。味方は是よりして。敵は遠くなる。退
してぞ入る。是より後兼舎は法より。兼和なる。面影なる。法より
面を黒く染めて。諸軍皆生得とせり。今素面を露し。法春自叙
は合國定の家士。是より後平六。是より後十。人の殺す。是より後
示し。合をば。痛く敵の要害を討つ。角へは。國小敵の若くも
が。案内は具せり。是より後。公なる。法より。の陣より。ぬき。是より後
軍小膽を消し。陣を払い。退き。是より後。法をば。延く。是より後
く。法は味方より。是より後。許容あり。は次の軍より。先より。法は
ま。是より後。許る。是より後。勝利の後。乃安堵を賜て。小敵より。返り。是より後

とどろくとぞりたる。門卒等是我が計ふ所のうらと。此まらうべし
と。敵衆は人を執らみ。け器を書きて旗色を結びつけ。後乃
擲むらひ射出し。暫くあつて向ふの嚴陣より掛梯を鉋たりし。
兵士二十も入り来る。一個は虎の如く態のどく。兼舎ぞ之れを
覗かぐ。ゆがひ走る。あ一人懐中を捜りてさくらん。無刀ありて中
陣小あつて軍師小対面せし。其終へるふとゆがはしと云。兼
舎向ふ色青くたし。身と慄して。後日かくだの。只今一人をさるは
何卒法一ありといふ。あつてもをかそくなまば。隠るるあ一人の内
くるまては。あつた。つるますまどと。皆と詞をさるる。さく
て休息をとるんれと。思懼らる。あつた。その終の弱卒與へ
入まらる。ゆがはし。いざ兼舎を賊徒が最後より包て様とまら。
岸段より鉄門のうらをこつて。軍師の陣よりゆがはし。軍師石丸虎

掃りの対面と。是日が言詞と。わのどく。石丸竊候の徒よ
させしむらん。あつたの武士乃。四よ。さるる。定て。実情をさると
し。石丸執大納の盃湯と。高こさる。ありなる。鉄塊のうら。のく
が。あつた。小酒を酌て。将く一献と。奉て兼舎よ。あつた。自酌と。れ
て。らる。兼舎頂戴と。せしむ。らる。あつた。二と。なれ。れと。
掌をさる。え。若く。口をよせて。吹や。此盃のを。さる。あり
が。と。類を。あつた。追ふ。其終へ。終つる。あつた。の。わく。皆。是。也。
飲ん。軍師を。さる。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
して。あ。これ。軍の。あつた。合。上。を。代。終。して。ゆがはし。と。小。卒。を。活。て。様。奥。
ゆがはし。其。二。三。の。門。あり。剛。田。之。殿。い。く。あ。と。あ。つた。あ。つた。
あ。
か。て。通。る。ゆがはし。あ。



わりぞり成体て鬼を殺し霊を使ふて成習ひ。軍中又因て山
 上控り林に托して眩暈をばし。頻の勝軍に心をうつ。清浄とほども
 の山村に妻をかんとて。重ておさむ。晴る成通ひらる。さういふ事
 れ許し酒のそかる。身らぬれぬ。二人二人同謀あり。内郭に
 入て室あり。此処に捜り来り。一は用ひて告るに。怒り。只六人を
 従へて。漢とほひて。清ゆく。間たれ。あか。さ。里らぬ。なり。て。お。め
 たり。泣者皆云。これ。あ。よ。の。か。勢。乃。さ。ぬ。より。て。は。は。び。き。つ。い。つ
 めて。し。ゆ。あ。の。き。う。う。う。う。か。か。た。た。く。え。ん。ま。ん。新。体。さ。ま。の。眉。躰。王
 実。隠。あ。る。は。眼。が。身。なり。潜。なる。お。の。折。う。た。れ。を。早。く。龍。衣。を。脱
 ぎ。と。れ。び。せ。ど。も。換。て。あ。う。と。ん。き。侍。衣。か。く。震。襟。あ。ま。が。ぬ。ぶ。恨。とい
 西。水。は。流。る。路。を。き。と。な。げ。か。る。侍。れ。羽。氣。の。雨。を。簑。よ。う。せ。だ。結。
 影。う。け。し。里。に。頭。陀。と。う。と。ん。ら。る。を。や。ど。と。ぬ。と。ぬ。わ。持。て。あり。天。

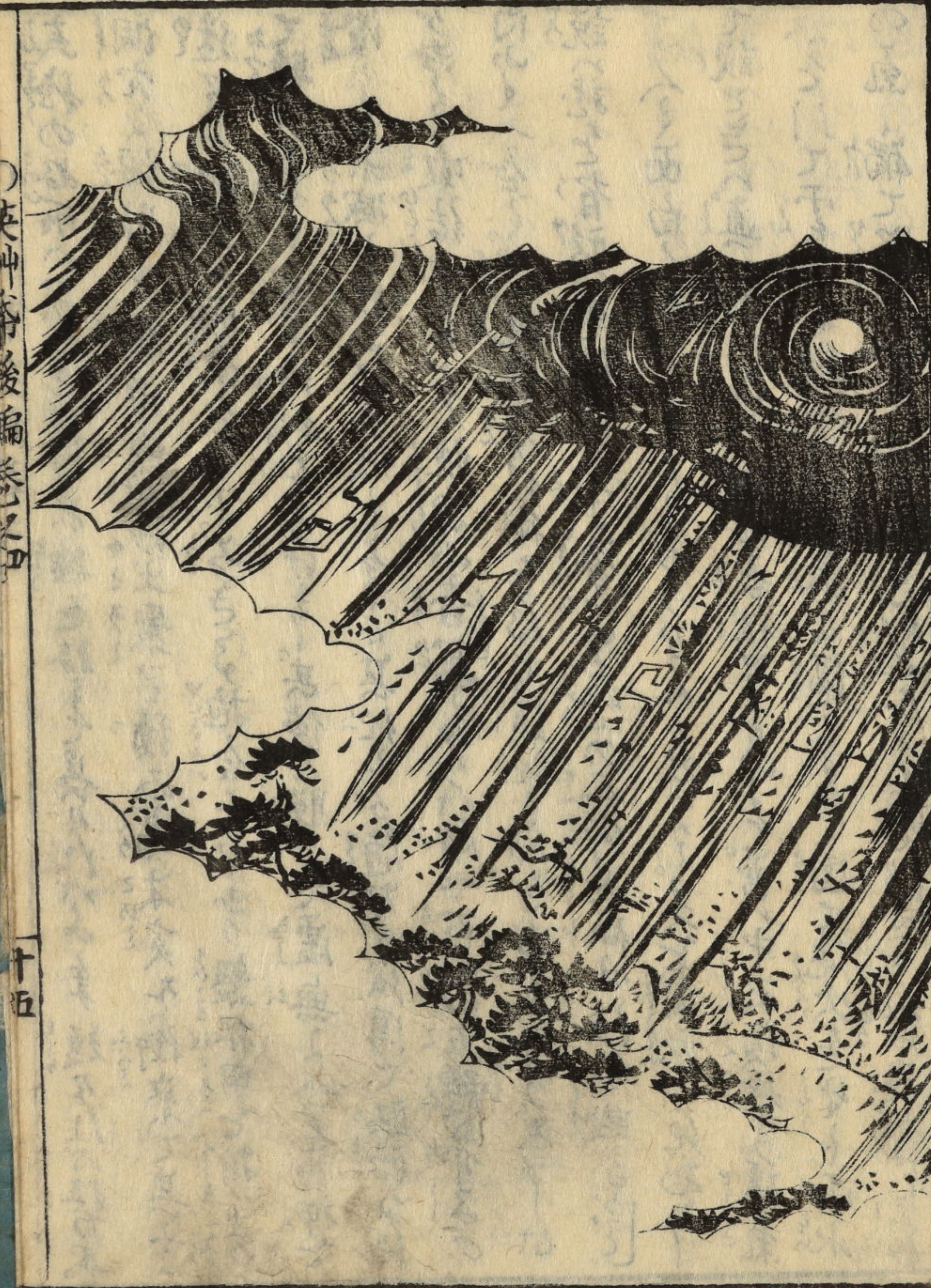
足下を山平れ。君もて。も。さ。う。せ。ま。入。体。が。衣。服。を。ら。る。る。飾。の。は。衣。に。換。て
 ち。り。せ。よ。い。傍。人。に。怒。り。た。れ。と。も。そ。す。ま。ぬ。と。さ。ぬ。く。よ。て。ぬ。と。ぬ。あり。
 殿。大。王。の。上。被。下。纏。を。換。ら。る。下。に。ゆ。し。ゆ。り。白。徒。の。袖。を。襟。深。の。ゆ。り。さ。る
 上。下。人。ど。なる。湯。傷。の。日。月。袍。は。白。布。袴。の。あ。う。を。た。ら。る。よ。か。り。密。令
 系。れ。き。せ。な。る。五。倍。深。の。傍。衣。乃。結。と。ぬ。と。ぬ。た。ら。る。身。の。か。り。さ。り。後
 院。に。湯。傷。の。人。金。冠。た。く。戴。ら。る。い。ふ。似。あ。さ。の。あ。う。た。と。傍。友。人。ら。る
 ぶ。り。ん。笑。を。吹。出。ん。や。て。雪。帽。ま。よ。う。と。き。う。髪。を。帽。の。内。に。束。れ。後
 参。て。お。路。の。ゆ。ゆ。い。ん。て。小。小。や。ら。る。袂。を。ぬ。て。か。け。ら。ら。ぬ。大。の。里。れ。乳。の
 き。ま。り。さ。が。せ。う。う。き。村。森。の。弓。を。弄。ら。る。鐘。本。は。取。ら。る。清。有。さ。ぬ
 水。は。映。し。て。我。が。う。せ。う。ま。き。さ。う。ま。た。う。く。道。の。も。後。痛。き。と。よ。さ。ぬ
 倒。り。み。ま。ん。ま。れ。成。改。め。ん。群。れ。必。ど。あ。ま。と。か。う。れ。創。業。れ。君。の。跡。は。し
 蒙。塵。と。れ。へ。賤。乃。服。を。押。と。る。と。例。あり。い。ま。傍。と。か。る。は。後。足。原。若。例

かつた。いづれの醜賣家と云は。よるよりくわめさる。い
 といふ。仇。け川を。さ。ば。岸の鼻乃。娘。と。名。を。の。か。ら。ん。と
 といふ。あ。や。い。ん。下。素。れ。傍。其。多。頭。の。所。劍。先。祖。大。山。名。の。み。と
 といふ。竹。末。の。家。實。なる。治。世。の。後。お。ま。り。此。山。半。片。と。場。で。傍。位。に。枝
 た。ち。び。と。空。た。の。と。か。る。潛。上。大。言。して。後。既。を。さ。う。と。急。に。か。ら。ぬ。と
 舟。子。と。加。へ。こ。き。に。控。船。の。な。ふ。斬。の。音。さ。呼。起。し。て。船。は。ま。と
 舟。子。目。と。摺。欠。伸。し。つ。船。を。よ。せ。軍。人。た。る。成。ん。て。腰。を。屈。め
 き。こ。か。れ。傍。の。後。て。の。ん。と。す。と。次。の。便。船。を。あ。づ。べ。と。さ。る。と
 比。こ。さ。い。あ。ら。る。軍。人。に。傍。を。ん。ら。し。か。ら。ず。い。ん。早。く。の。り。ね。と
 づ。よ。か。と。お。て。の。り。ろ。る。を。さ。り。ん。ふ。か。と。か。と。は。せ。船。を。出。し。早。ま
 つ。く。舟。五。人。の。兵。の。早。く。ろ。る。み。よ。み。手。と。り。て。再び。川。へ。押。出。と。い。傍
 づ。ろ。り。我。を。い。ふ。ふ。上。ね。と。こ。と。さ。ぬ。と。き。目。然。あ。ら。み。出。た。舟。子。棹。を

と。て。板。を。し。き。眼。に。さ。く。ま。と。つ。と。より。て。船。を。ふ。ふ。と。船。傍。に。力。を
 出。し。の。り。が。船。上。足。の。踏。不。定。と。ど。か。か。く。と。船。を。ま。ま。と。り。
 舟。子。繩。を。出。し。て。御。は。ら。の。山。岸。よ。り。し。み。人。船。を。と。て。あ。せ。り。さ。け
 お。ま。の。農。人。出。来。て。そ。の。人。の。兵。を。擒。よ。す。是。農。人。の。あ。ら。げ。兼。合。の
 家。人。丹。二。丹。と。名。なり。舟。子。の。即。兼。合。なり。生。捕。を。委。せ。て。見。ら
 陣。取。よ。る。を。命。二。命。見。と。ん。て。も。柄。と。き。に。こ。さ。れ。安。の。ら。び。
 の。子。僧。衣。の。の。と。い。ん。ど。眉。髯。王。と。い。ふ。さ。い。づ。つ。と。う。い。づ。と。さ。り
 所。へ。お。ま。の。衣。と。と。な。れ。と。頭。院。の。僧。錦。袍。弓。劍。と。持。あ。り。て。其
 板。と。さ。つ。け。傍。に。と。茶。師。を。れ。新。茶。意。兼。合。を。し。て。敵。ら。く。細。作。を
 な。さ。ら。し。め。ら。る。る。遂。に。兼。合。を。ら。柄。と。極。る。山。塞。の。令。儀。を。教。を
 流。し。か。ら。兼。合。を。ら。中。に。破。鉄。の。玉。あり。兼。合。生。捕。の。中。に。け。五。玉。の
 板。五。を。破。け。種。と。酒。め。り。に。足。あ。る。石。丸。が。説。と。す。て。賊。營。の。例。は。古

き人穴ありて。賊首の眷屬うたれたる。是とのうて逃げきよめらば
と。二人再び山に登り彼窟に隠れしる。直よして井の口をく。石を
投ふ。其底ふり。人とやたらし。人をもどつて。立りしる。やうあそ
舎は不さし。突落し。なり。土を以て穴の口を塞ぎ。始終を友人が
功く。眉髯王を引せて凱陣し。兼舎我死し。投落し。二人悲賞
と。又て此地を安堵せり。兼舎の穴は落し。こゝの絶入。と。いつても
流し。身をはき。打換し。腰膝難保が。岩中。明。そののうと
抜穴。もといざり。して終つる。幽。天をるる。まの鏡。も。出。れば
も。ふ。れば。何の賊。後。う。こ。ん。か。れ。は。是。友。人。の。悪。を。し。我。を。陥。する
よ。と。こ。と。り。の。う。て。は。流。し。鐵。も。な。が。ん。し。穴。の。内。に。合。し。る。べき。物
や。あ。つ。と。胸。は。が。ま。さ。ら。ん。ま。あ。つ。て。い。え。ん。と。し。て。か。の。う。さ。さ。り。老人
ありて。兼舎。你。愛。し。た。ら。ん。穴。は。出。き。候。り。と。あ。ま。し。か。と。は。ら。る。

よ。さ。い。ん。た。の。と。せ。し。て。は。老人。を。お。し。て。穴。は。出。る。事。と。ほ。む。ま。は。
再世の恩かり。と。い。し。と。足。友。人。の。毒。智。を。訴。へ。告。ぐ。老人。云。世。の。人。を
殺。した。る。古。より。殊。の。は。我。は。久。し。く。友。人。の。恩。を。し。る。と。百。年。二。百。年。の
此。穴。と。出。だ。進。む。け。穴。は。出。き。ま。あ。ま。し。か。と。は。ら。る。と。送。り。出。た。べ。兼。舎
は。怪。し。む。殺。す。老人。ま。き。候。を。出。し。て。兼。舎。よ。あ。つ。て。鐵。を。志。の。び。し。と
い。へ。兼。舎。是。と。論。して。より。ま。さ。鐵。を。巻。ん。ど。あ。つ。と。も。い。う。る。神。仏
ふ。て。流。し。せ。ま。ふ。と。思。ふ。我。は。古。より。其。名。を。は。ら。る。る。あ。つ。た。は。魅。惑
の。長。かり。龍。を。以。て。呼。ぶ。強。直。は。強。ゆ。かり。の。精。氣。の。乃。ぶ。あ。り。う。ん。や
兼。舎。お。い。ふ。兼。山。は。は。ら。る。と。い。ふ。是。は。穴。の。主。か。ら。べ。し。と。兼。舎。い。て。我
世。に。出。た。と。一。郡。の。主。か。ら。は。失。つ。た。の。噂。は。お。あ。げ。者。よ。し。け。ん。と
進。め。ん。と。い。ふ。お。隙。を。揺。て。我。の。信。虚。に。て。流。瀧。を。飲。合。し。と。兼。舎。い
兼。舎。い。て。彼。毒。血。を。嚙。む。若。林。と。畏。る。は。是。は。蛇。窟。の。聲。の。と。兼。舎。同



其神の好所いづる。若くは睡を好むと長られば子身短られば好まず。
洞穴に偃卧して鱗甲の間沙土聚り積み。鳥木実を銜来て其上に
送るが鱗上の両葉を生じ。若くは抱合とんまり盤根甲と折て方
て睡を好む。遂に脩短をくげず。其体と脱して虚無に入ると其神を
澄して宋滅自然の政と形と事と其他を随つて得て。胚胎を死
がぞく凝結ざらざら。恍惚小杳冥多り。けりや百骸五體芥子の
内に入りて。還元返本れ術をひて造化と功を多ふなり。若くは
説法を有形の生活して工の勢といふ。画堂の三停九似の法を設ふが
は人も面白く奇しくてもあり。若くは定形なり。若くは
て説き。真龍の体ハ雷と表裡なり。あつて雷ハ中天積背の陽氣
水を引て雲雨を醸し。其水氣は通らして固て純火を生じ。雨水
の氣は觸て遂に射とおを撃つ。おをうらして消せざれば凝合して

炮の勢ひの如く。いづく觸ていづく遂に消滅してやむ。是陽激しく
陰に我勝らるなり。陰陽相搏て芒毛を生じ。又歎をせしむる。
龍ハ地中積背の陽氣。地下の陰と氣と和せん。地外の陽の射り
動らして雲を引て雲を起し。雷電ともいふ。
半は雲小入て旂の如く掛り。雲端に伸縮の貌あり。其を暢と
歎して振らる。既に暢て消散する。一氣と和と。一氣と和と。
雨ハ春來し。雨して形なり。秋風の寂滅の空にのみ。若くは虚無
を以て有る。若くは人の教を人其爰揚して近藏の徳を失ふとす。
彼徳の如く。若くは虚無の如く。若くは虚無の如く。若くは虚無の如く。
地下に潜居して陰陽の如く。若くは虚無の如く。若くは虚無の如く。
なり。儒教と申す。人の空智の二つ。若くは虚無の如く。若くは虚無の如く。
氏の空といふ。若くは虚無の如く。若くは虚無の如く。若くは虚無の如く。

用て世を安らふ人。俗説に豊城の延津に入て龍をたるといふ。後銀煉
 として作る人。自然のおよぶに豈然と流まると事を得んや。伴説に
 龍女天龍を説くもの教記の及ぶ所廣き故なり。又龍城より龍女
 今よの説の文人を著すとみよるの虚説として益なき文章なり。同説に
 其幸ありと皆水物乃妖と魅せしむるとして其説の事と異ならず。易
 乾の象として似げなり。坤の象として配せしむるに却て我眞龍を
 まうやとさうとや覚来たり。今此生して龍を現むるといひ你を助ふの
 造化なり。我形より方ふあらず。你は空の泥を方ありて晦冥の時と
 往は伴と換せば上丹の事ふふとて空然生べし。細く告てよくしむ形
 なり。教日の後空の仲夏暗しとて雲烟沸ぐ如く其なる無が如く。岳
 震動天折地山崩がごとく。閃電志きりふのやれ山石中の大石却て揚
 るんとと兼舎身自らはうやせず飛揚と。足ゆきき時ありと傍れ山

奉てのむれを空の口をあらとてとも。冥の裡其勢をむぶるべし。大龍
 にとりんとす。ふふ解る本の枝とてててを理のさめいと知はず。俄
 小して雲晴ればはけた本の梢あり。急ぎ地よりりて踏よむとたは
 民居あり。是となりら賊寨の後の山村なり。我いみん王と捕へる所と
 之界なり。軍中よて空ふ落り今そよ出たりと。民家よと息じ。
 山民多驚に解ひ。眉をん王が取換るるに免とてねびり。こころの
 隠し業といまのねをうらほして終ごましと。兼舎山と出て於て
 より。吾々の足かたはる牙の牙とて其業許よべきにあらず。只我一
 の指不と賜ふんとたげきアクリれば天候なり。旧領より入る。友人の
 兄の自ら辱て身と隠し。懸居りたれば。其者不居る。兼舎と辱し
 兼業お懐と。承平の初ね門近治の命と懸とて軍功あり。江及中園
 と守護し。甲が笑那よ鏡を攝へ。近江守と梅守。後の伊賀迎に踏りて

大儀を發^つらるとかり。法^き定^まり入^りし奇^き談^{だん}のふ^ん本^{ほん}入^りの遠^のりて。思^おふ^ふも
る^るまで足^あを話^か柄^{がら}とん^ん道^{みち}糖^{じやう}か^から^らる^る其^{その}言^{こと}や

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, likely a continuation of the text on the right.]

古^こ今^{いま}奇^き談^{だん}秘^ひ未^み所^{ところ}話^か本^{ほん}四^よ巻^{まき}終^{はつ}

